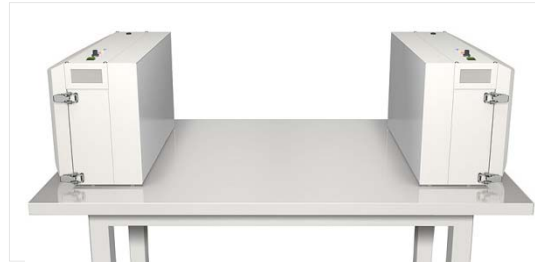


平成25年12月期 決算説明資料



クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

平成25年12月期 決算概要

営業の経過及び成果

当事業年度（平成25年1月～12月）におけるわが国経済は、政府の経済政策や日銀による金融政策への期待感から円安・株高が進行し、海外における一部の不確定要因による下振れリスクはあるものの、輸出産業を中心とした企業収益の改善や個人消費の持ち直しの兆しが見られるなど、回復基調で推移しました。

しかしながら、安全用品事業の回復は6ヶ月以上遅れるのが経験則であり、またコストを優先する大企業も依然として多く、当事業年度において景気回復の恩恵に浴することはできませんでした。

引合いの急増を見て期待したオープンクリーンシステム「KOACH」については、事業の性格として受注に至るまでに相当の時間を要することが明らかとなり、引合い検討中の件数のみが膨れ上がる結果となりました。そうした状況から、売上高は74億76百万円（前事業年度比10.2%減）に留まりました。

利益につきましては、震災特需の反動減を予想し、全社的な経費圧縮に努めましたが、減収及び円安による原材料価格の高まりや新製品開発費用の増加等にもなう売上原価率の上昇により、営業利益4億66百万円（同37.3%減）、経常利益4億9百万円（同38.1%減）、当期純利益2億29百万円（同40.4%減）となりました。

セグメント別の業績は以下の通りであります。

（マスク関連事業）

医療用マスクの販売では、使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズの高フィット性能が評価され、全国の6割を超える保健所で採用が進みました。加えて、感染症指定医療機関、大学医学部、総合病院でも、着実にシェアが拡大してきています。

その一方で、期中の産業用マスクの需要は、回復という段階までには至っておらず、また原子力施設市場に投入した電動ファン付き呼吸用保護具「BL-711H」と全面形防じん・防毒マスク「1521」シリーズは、安全性のさらなる向上、コスト低減、装着者の不満解決といった製品コンセプトを高く評価され、全国の原子力施設での採用が相次いだものの、事故処理が続く東京電力福島第一原子力発電所様での当事業年度内での新たな受注には至らず、小幅の売上増に留まりました。

その結果、マスク関連事業の売上高は、68億36百万円（同7.5%減）となりました。

なお、本年5月に市場参入を表明した一般消費者用のマスクについては、子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズ3品種を10月より発売いたしました。同シリーズは、インフルエンザ等の健康被害を受けやすいとされる子どもたちに、大人用と同じ高性能、高フィットのマスクを提供することを目的に開発したマスクで、当面月産50万枚の体制を整え、今後、高性能を希望する母親をターゲットとして、一般消費者向けに徐々に浸透させることを目指します。

（その他事業／環境関連事業等を含む）

オープンクリーンシステム「KOACH」については、引合いから受注までに時間を要することが期中に判明したため、活動目標を継続物件情報数の増大とする営業転換を行うとともに、先ずは大学や研究機関に強力な販売チャネルを持つ理化学機器代理店網の整備に努めて参りました。その結果、物件数は当事業年度末で650件を超え、期待通りの蓄積が進んでおります。なお、京都大学iPS細胞研究所様や宇宙航空研究開発機構JAXA様など、国内の最先端技術の研究機関において、「KOACH」はそのクリーン化技術が高く評価され、近々には採用される見通しであります。

全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」については、採用ユーザー様からの追加発注に加え、ユーザー様の「鏡内侍」に対するコメントを記載した消化管の医療専門誌の広告展開も寄与し、着実な実績を上げている一方で、官公庁向けの空気浄化装置の受注は、震災特需の反動により対前事業年度比大幅減となりました。

その結果、その他事業の売上高は、6億40百万円（同32.0%減）となりました。

業績の概要

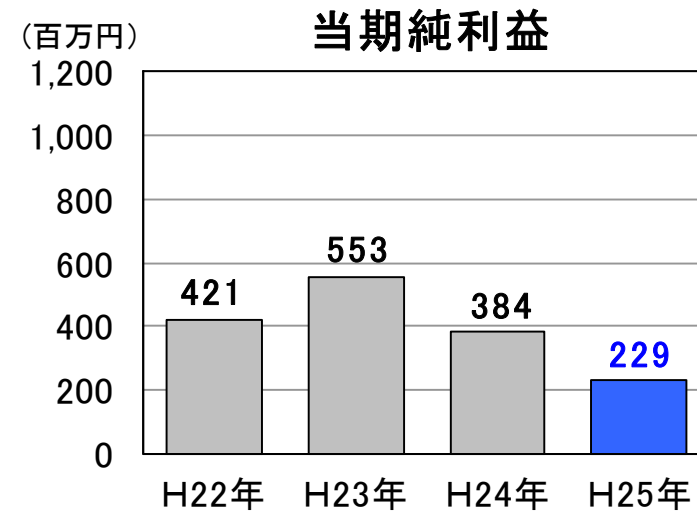
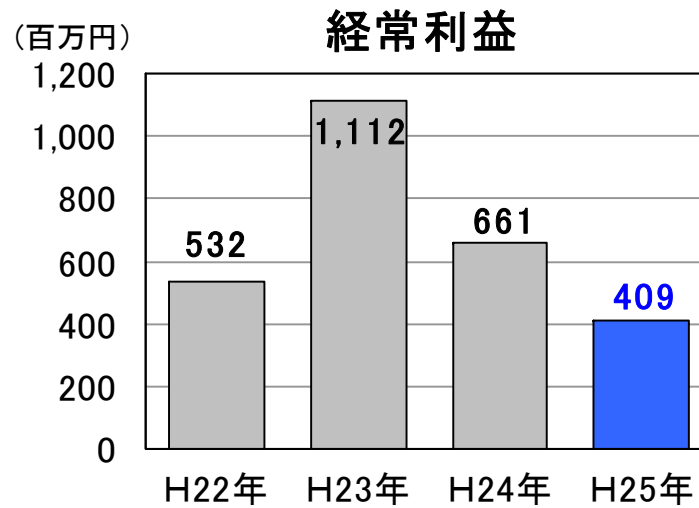
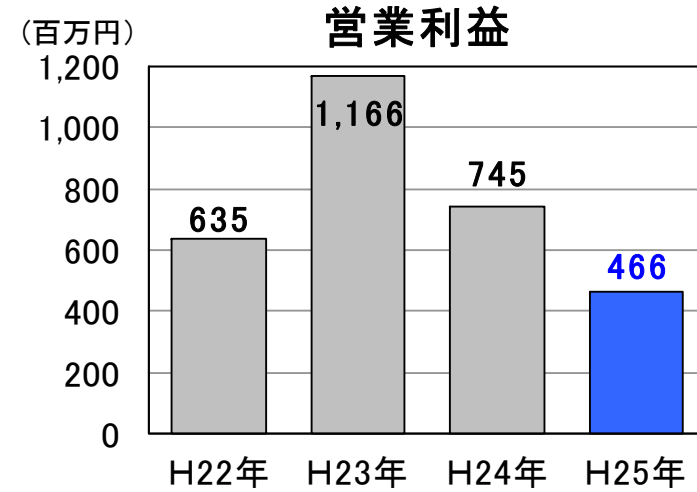
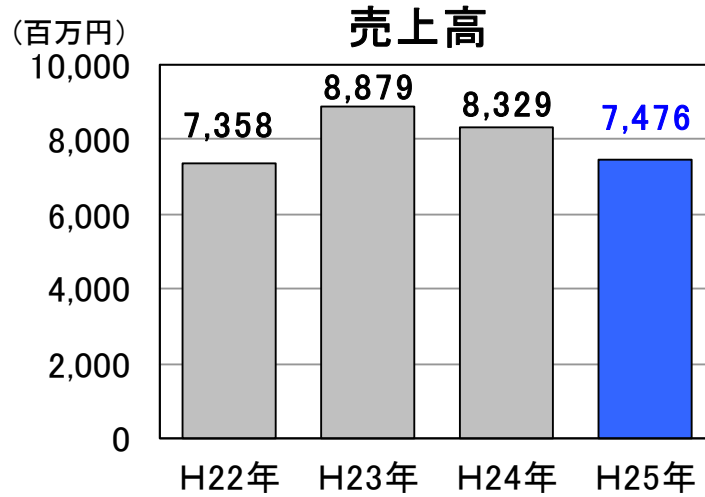
(単位:百万円/単位未満の端数切り捨て)

	平成24年12月期		平成25年12月期		前事業年度 増減
	金額	比率(%)	金額	比率(%)	
売上高	8,329	100.0	7,476	100.0	△853
売上総利益	3,744	45.0	3,292	44.0	△451
営業利益	745	8.9	466	6.2	△278
経常利益	661	7.9	409	5.5	△243
当期純利益	384	4.6	229	3.1	△155
1株当たり当期純利益(円)	76.07	—	45.45	—	△30.62

	平成24年12月末	平成25年12月末	前事業年度末 増減
総資産	15,966	15,465	△500
年間新規設備投資	(526)	(451)	(△74)
負債	7,318	6,785	△532
有利子負債	(5,873)	(5,411)	(△461)
純資産	8,647	8,679	31
自己資本比率(%)	54.1	55.9	1.8
1株当たり純資産(円)	1,703.16	1,713.23	10.07

売上高・利益の推移

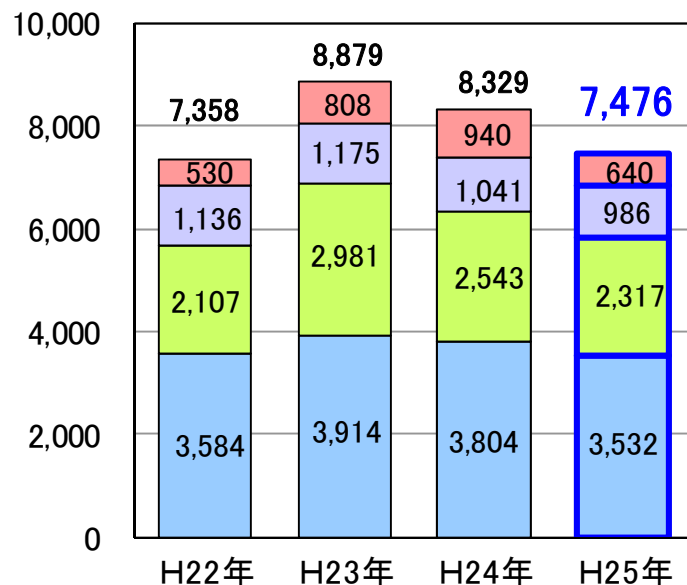
(単位:百万円/単位未満の端数切り捨て)



セグメント別売上高の推移

(単位: 百万円/単位未満の端数切り捨て)

(百万円)



セグメント別の概況	
<p>マスク関連事業 (■防じんマスク、■防毒マスク、■マスク関連その他製品)</p> <p>震災特需の反動減と期中の産業用マスクの需要が回復の段階まで至らなかったことなどにより、売上高は対前事業年度比減となりました。今後は、耐震強化、東京オリンピックなどのインフラ整備にともなう建設用マスクの需要の増大への対応及び医療・一般消費者市場への取組み強化を推進して参ります。</p>	
<p>■その他事業 (環境関連事業等を含む)</p> <p>官公庁向けの空気浄化装置の震災特需反動とオープンクリーンシステム「KOACH」の受注が予算達成に至らなかったことから、売上高は前事業年度実績を下回る結果となりました。「KOACH」については、当事業年度末で650件を超えた引合い物件情報数のさらなる積み増しと確実に成約に結び付けるための営業活動を続けて参ります。</p>	

品目区分	平成22年		平成23年		平成24年		平成25年	
	金額	比率	金額	比率	金額	比率	金額	比率
■ 防じんマスク	3,584	48.7%	3,914	44.1%	3,804	45.7%	3,532	47.2%
■ 防毒マスク	2,107	28.7%	2,981	33.6%	2,543	30.5%	2,317	31.0%
■ 防じんマスク・防毒マスク関連その他製品	1,136	15.4%	1,175	13.2%	1,041	12.5%	986	13.2%
マスク関連事業 計	6,828	92.8%	8,070	90.9%	7,388	88.7%	6,836	91.4%
■ その他事業 (環境関連事業等を含む)	530	7.2%	808	9.1%	940	11.3%	640	8.6%
合計	7,358	100.0%	8,879	100.0%	8,329	100.0%	7,476	100.0%

トピックス

◇最先端の研究機関を中心に採用が進む「KOACH」

オープンクリーンシステム「KOACH」は、ISOクラス1という高い清浄度と超低消費電力という世界に類を見ないクリーン化技術の特長から、精密機器分野はもとより、最先端の研究機関や医学・バイオ分野での導入が進み、政府が推進する国土強靱化という観点からも注目を集めています。

◇研究機関での採用が進み出しています

「KOACH」は、以下のような国内最先端の研究機関で採用されています。

- ・独立行政法人産業技術総合研究所 様
- ・東京大学宇宙線研究所 様
- ・東京大学院工学系研究科附属光量子科学研究センター 様
- ・自然科学研究機構国立天文台 様
- ・独立行政法人海洋研究開発機構 様 ほか

そして近々には、独立行政法人宇宙航空研究開発機構 JAXA様、京都大学iPS細胞研究所様でも採用される見通しです。



国立天文台内に設置された
フローコーチ KOACH Ez-F

◇実験・解析作業には欠かせない装置であることが実証されつつあります

「KOACH」は、極めて高い清浄度の空間を形成し、人の介入によって一旦汚染されても速やかに元の清浄度に回復するという特長から、京都大学iPS細胞研究所様をはじめとする医学・バイオ分野の研究施設での実験・解析作業に欠かせない装置との高い評価をいただき、同分野での導入が加速しつつあります。



京都大学iPS細胞研究所での
テーブルコーチを用いた実験

◇国のレジリエンス計画も貢献する技術であると紹介されました

政府が取り組む国土強靱化(ナショナル・レジリエンス)計画の議論の場として、平成25年9月、「強靱なコミュニティ(まちづくり・企業づくり・人づくり)はどのように実現すべきか?」と題したシンポジウムが開催されました。

古屋国土強靱化担当大臣の基調講演に続く企業講演の中で、当社代表取締役会長酒井眞一郎が「レジリエンス時代のクリーンルームと企業のBCP対策」と題した講演を行い、「KOACH」の性能、管理、電気代、施工期間、耐震性等の優位性を示しながら、「KOACH」の普及こそが日本の科学技術と産業の高度化に寄与し、それが国の提唱する「攻めのレジリエンス」につながることを訴え、好評を博しました。



国土強靱化シンポジウム

◇子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズを発売

インフルエンザやPM2.5対策としてマスクに注目が集まっている中、当社は特に健康被害を受けやすい子どもへの対策が急務であると考え、子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズを製品化し、「ハイラックKIDS」、「ハイラックKIDSかからんぞ」、「ハイラックKIDSうつさんぞ」の3品種を発売しました。

◇フィットの重要性が徐々に浸透

当社は、マスクにおけるフィットの重要性を啓発するため、マスクの「漏れ率測定サービス※」を行っておりますが、最近では当社以外にも国民生活センターがマスクの漏れに関する発表を行ったり、NHK「ためしてガッテン」で漏れ率測定の実験の様子が放映されるなど、フィットの重要性を伝えようとする動きが出てきました。また、一般消費者向けのマスクにおいても、フィルター性能だけでなく、高フィットを謳うマスクが出回るようになり始め、当社が長年訴えてきた“フィットの重要性”が世の中に浸透しつつあります。

※漏れ率測定サービス 平成25年12月末現在の体験者数 26万人(一般事業所:18万人+医療機関:8万人)



子ども用マスク
「ハイラックKIDS」

◇「ハイラックKIDS」シリーズのフィット性能の高さの秘密

①従来の「ハイラック」シリーズで培ったフィット技術を継承

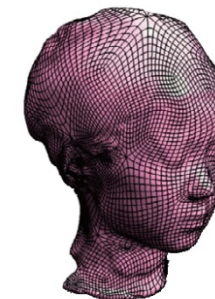
- ・FF(フリーフィット)リップ: マスク内側のリップ(折り返し部)が、顔の動きに追従してスキマ・ズレの発生を抑える
- ・耳かけ紐: フィットに最適な長さに調節が可能



高フィット性を生み出す
FFリップと耳かけ紐

②子どもを科学したデータに基づく設計

高フィット性マスクの「ハイラック」シリーズをベースとした上で、子どもの顔の計測や呼吸パターンの解析、漏れ率の測定などから得られたデータを基に、子どもの顔・呼吸に最適となるマスク設計を行っています。



3Dスキャナを用いた計測

研究開発活動

◇マスク関連事業

【子ども用マスク「ハイラックKIDS」シリーズ】

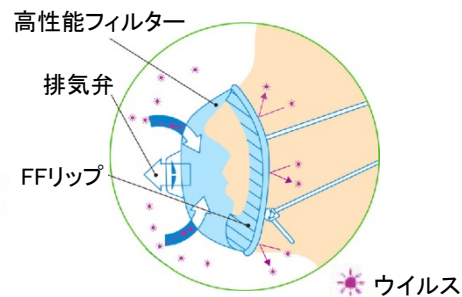
インフルエンザウイルスやPM2.5などの吸入を防ぐマスク



「ハイラックKIDS」



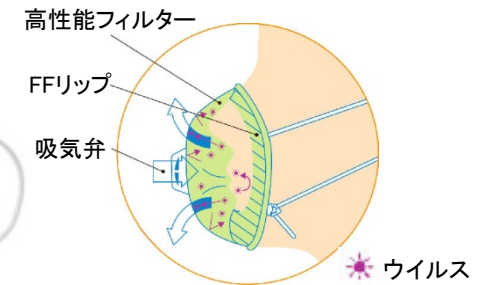
「ハイラックKIDSかからんぞ」



インフルエンザなどにかかった子どもが、
ウイルスを拡散させないためのマスク



「ハイラックKIDうつさんぞ」



【その他製品】

・小型防毒マスク「サカキ式R-5-08型」

密着性の高い面体構造と豊富な吸収缶のバリエーションで、広く使用されている防毒マスクR-5型に陰圧法による密着性、気密性の確認が必要な時にいつでもチェックできるフィットチェッカーを内蔵させました。

・全面形直結式小型防毒マスク「サカキ式1621G型」

吹き付け塗装の際、塗料が付着しても簡単に拭き取って視界が保てるように、スーパーペイントバリアコート加工 を施したガラス製のアイピースを採用しています。

・クールブローウエア「CB-1」

当社、デュポン(株)、アゼアス(株)のプロテックアライアンスの初の製品。首元から送風することで、防護服全体に空気を送り込み、汗が蒸発する際の気化熱を利用して冷却効果を高めるように設計されています。

◇その他事業

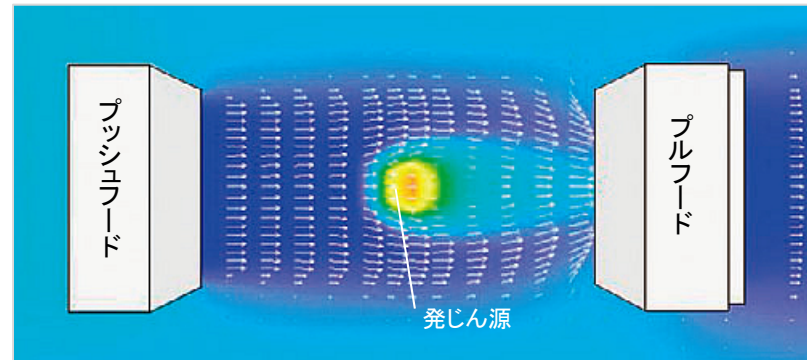
【テーブルラミコーチ LAMIKOACH J 500-F】

一般にクリーンルーム内で発生した粉じん等はクリーンルーム内に拡散した後、フィルタを何度も通過して徐々に捕集されるため、一旦汚染されてしまったクリーンルームが元の清浄度に戻るまでには相当な時間を要します。そこで当社は、発生した粉じん等のコンタミナントを拡散する前にラミナー流で捕捉してフィルタで捕集し、清浄化された空気を再びクリーンルーム内に戻すという室内循環式の換気装置「ラミコーチ」を販売しています。

そしてこの度、ナノファイバーフィルタ「FERENA」を搭載することで、より高い清浄度を達成し、かつテーブル等に置いて設置するだけで使用可能な卓上タイプの「テーブルラミコーチ」を開発し、発売いたしました。



テーブルラミコーチ LAMIKOACH J 500-F



清浄度分布のイメージ

発じんがあってもクリーンルーム内に拡散することなくプルフードで清浄化されて、さらに周囲よりも清浄度を高めることが可能（濃い青ほど清浄度が高い）

平成26年12月期の業績予想

次期見通し

(単位:百万円/単位未満の端数切り捨て)

次期の国内経済は、消費増税による景気減速懸念はあるものの、アベノミクスの更なる進展により、国内需要の活性化が期待されます。

そのような環境のもと、当社は製造業の国内就業者数減といった向かい風の中で、産業用マスクの新市場の開拓や医療・一般消費者市場の需要の掘り起こし及び「KOACH」を中心としたクリーン市場に重点を置いた取り組みを続けて参ります。

技術開発型企業である当社では、新製品の開発が続いており、これら製品は、既存のマーケット以外のものも多く含み、これら新製品の事業化の成功が、当社の将来を決定する鍵になると考えています。従って、事業環境の変化を迅速に捉え、技術・製品開発や営業活動に活かすことを目的に、「マーケティング本部」を新設し、これらの事業の早期成功に向けて、体制の整備と人材の育成に努める所存です。

しかし、これら新事業の成果が上がるには、もう少し時間が掛かると考えており、次期の業績は、売上高77億円(当事業年度比3.0%増)、営業利益4億80百万円(同2.8%増)、経常利益4億10百万円(同0.1%増)、当期純利益2億20百万円(同4.1%減)となる見通しを立てております。

セグメント別の見通しは以下の通りであります。

(マスク関連事業)

当社は、フィットの重要性の啓発活動をマスクメーカーの使命として産業、医療、一般消費者それぞれの分野で継続し、平成27年に厚生労働省の国家検定化が予定されている電動ファン付き呼吸用保護具や感染対策用マスク等のシェア拡大を図ります。売上高は62億円(同9.3%減)となる見通しです。

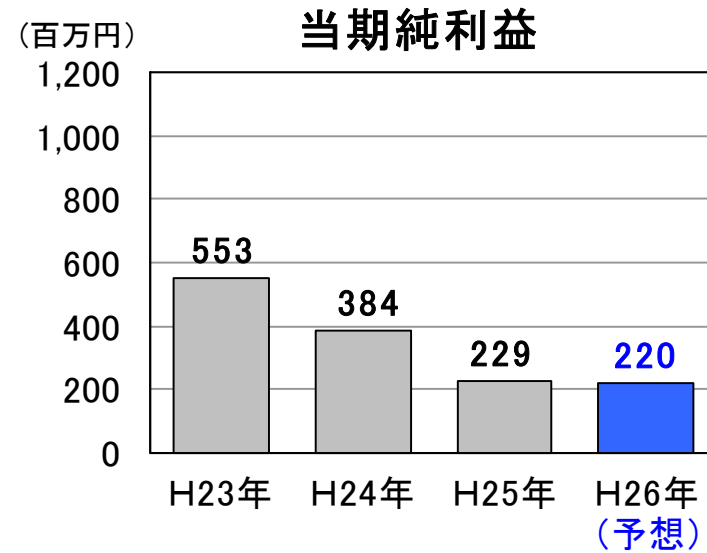
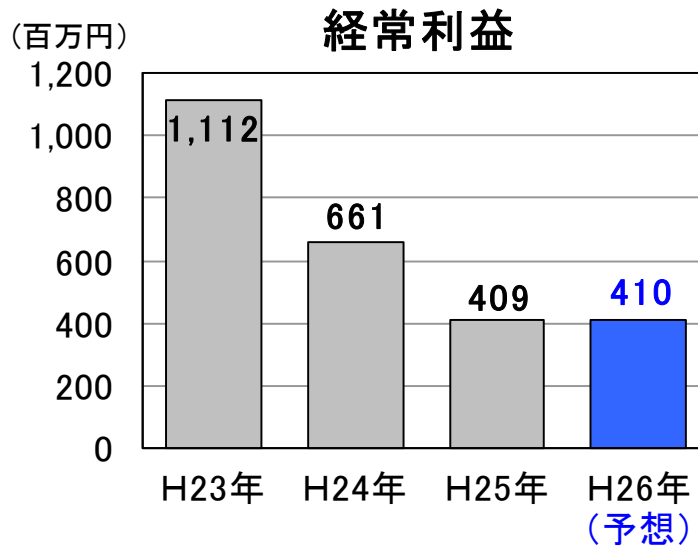
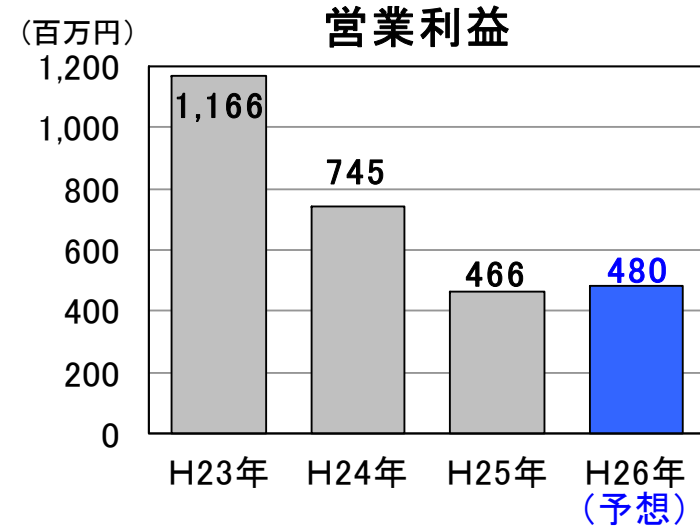
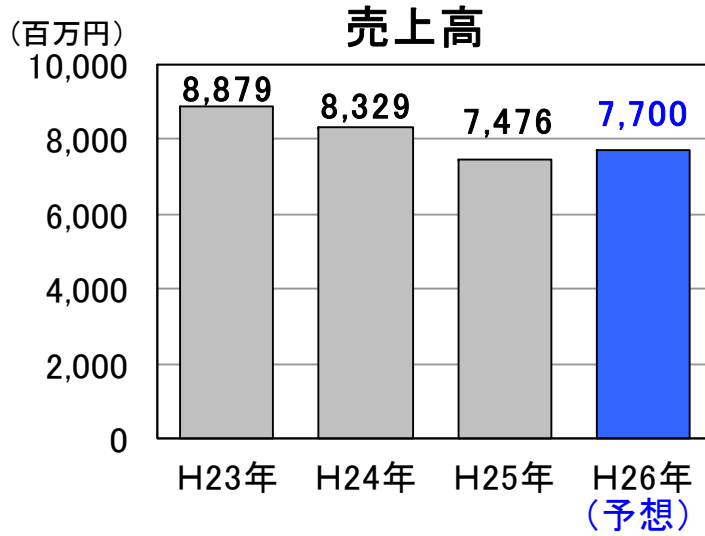
(その他事業/環境関連事業等を含む)

オープンクリーンシステム「KOACH」については、大学や研究機関を主力顧客とする代理店の販売網を活用した「テーブルコーチ」の拡販を行うとともに、継続検討物件数の更なる増大を図りながら、ルーム型の成約を進めて参ります。また全自動内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍」については、採用ユーザー様からの高評価を後楯とした営業を継続することで着実に受注に結び付けます。売上高は15億円(同134.3%増)となる見通しです。

区分	平成25年12月期 実績	平成26年12月期 予想
売上高	7,476	7,700
営業利益	466	480
経常利益	409	410
当期純利益	229	220
1株当たり当期純利益	45.45	43.58

業績予想

(単位:百万円/単位未満の端数切り捨て)



本資料に記載されている業績予想数値等の将来に関する記述は、「平成25年12月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）」発表日（平成26年2月12日）現在において、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
Eメール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <http://www.koken-ltd.co.jp>